

川柳 二十八年八月 「時」「鳴く」

犬が吠え 目覚めた猫が うらみ鳴き 掘 輝規

スイカ抱き 盗んだ猿が 詫びて鳴く 掘 輝規

困り事 時が流れて うれし事 掘 輝規

耳鳴りに 悩み続けて 幾年月 伊藤 直人

お賽銭 チャリンと鳴って 願い事 伊藤 直人

時々は 思い出してる 若い頃 伊藤 直人

時の風 受けて開いた 百合の花 山本 昭子

都知事選

時は過ぎ 安倍政権は 盤石に 山本 昭子

鳴き声で 上手に甘える 猫嫌い 山本 昭子

この年令としで 三時のおやつ まだほしい 西沢 秀子

ネジ巻いた 柱時計 みなくなり 西沢 秀子

“靴が鳴る” 歌詞もすらすら うたえるよ 西沢 秀子

爺さまは 五分置き聞く 「今何時？」 谷口 明世

孫が来る 何にしようか 腕が鳴る 谷口 明世

表彰の 君が代が鳴る 泣き笑い 谷口 明世

時が過ぎ 爆買い減って 閑古鳥 藤原 輝治

子供とは リオよりもっと 時差があり 藤原 輝治

暑すぎて 秋虫鳴くの 中止かな？ 藤原 輝治